

第1日 第3会場 - 1

児童の表現力を育てる学習指導の研究 — 説明的文章の読み書き関連学習を通して —

埼玉大学大学院 大木 聖子

昭和52年前後に隆盛を極めた「関連学習（指導）」も、これまでに多くの研究・実践をくぐり抜け、現在の教室の学習場面では、すっかり安定した位置を占めている。

私は、関連学習の中でも「説明的文章の読み書き関連」という点に的を絞り、最終的には論理的な文章が書ける児童を育てるすることを目指し、次のような経過で研究を進めている。

1 説明的文章の学習指導の現状

埼玉県比企郡の市町村立小学校の教師、185名を対象としたアンケートによって、

①児童の実態、②教室での学習指導の実態、を探り、現状と問題点を明らかにした。

2 今日までの説明的文章指導

代表的な先行研究を、①先駆的な関連指導、②話題・題材上の関連指導、③学習活動上の関連指導、④技能上の関連指導、の4種に分けて検討し、学ぶべき点や課題を探った。

3 説明的文章を支える思考力

「論理的思考力」については井上尚美氏の研究に、「関係づける力」については西郷竹彦氏、中沢正堯氏、櫻本明美氏らの研究に学び、説明的文章を読み書きするときに働くと思われる「思考のはたらき」を、次の5つに仮説として定義した。

- | | | |
|--------------|--------------|-------------|
| (a) 比較すること, | (b) 順序立てること, | (c) 類別すること, |
| (d) 理由づけること, | (e) 推理すること | |

これらの「思考」を働かせる力を、読解と表現の共通の目標とすることにより、児童の論理的な「表現力」を伸ばす学習指導が可能になるとえた。

4 児童を取り巻く「思考のはたらき」

上記の仮説をもとに、①児童の作文（1～6年・約800人）、②教科書教材（5社）を分析し、学年別の学習指導計画と授業の試案とを提案する予定である。